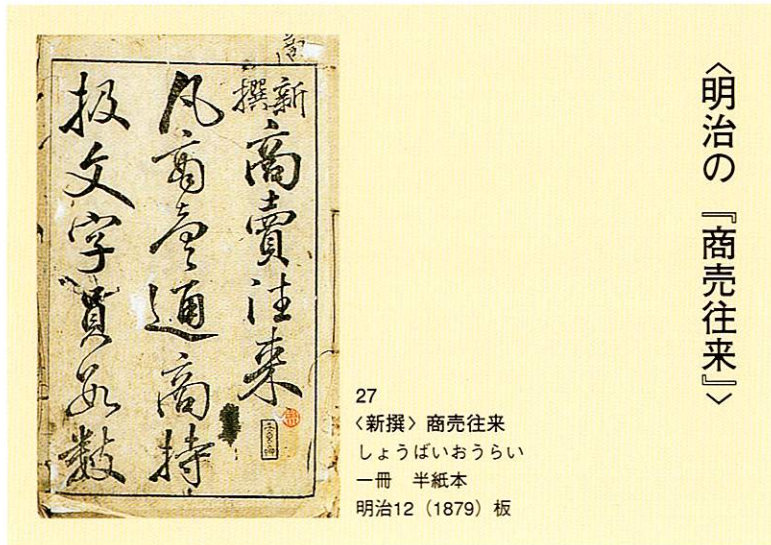


商売往来

京都の手習師匠の堀流水軒ほりみづのうつけんの著作。元禄七年（一六九四）大阪 高屋平右衛門刊。商取引に関わる記録文字、貨幣、商品、商人の生活に必要な教養・教訓の四つから成る。商品に関する名称が多い。商人だけでなく、生産者・消費者にも役だったので二〇〇種以上の板を重ねた。



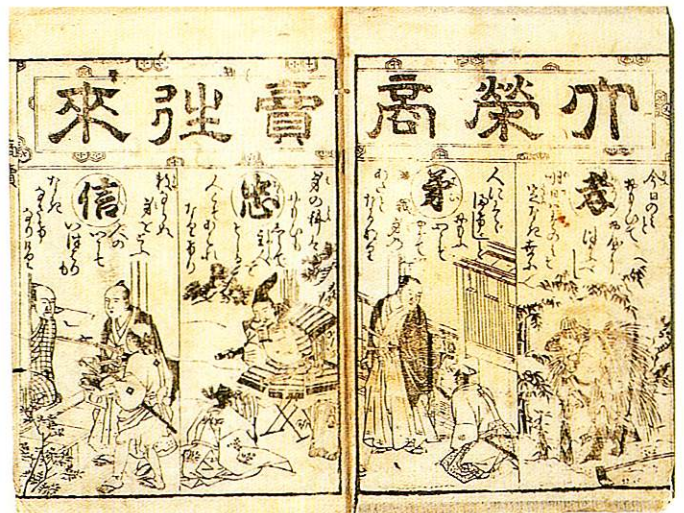
26  
商売往来  
しょうばいおうらい  
一冊 大本  
宝暦2 (1752)  
永寿堂 伊勢屋金兵衛新板



27  
〈新撰〉商売往来  
しょうばいおうらい  
一冊 半紙本  
明治12 (1879) 板



28-2



28-1  
大栄商売往来  
だいえいしょうばいおうらい  
一冊 中本  
安永9 (1780) 高屋重三郎板



29  
商売往来  
しょうばいおうらい  
一冊 半紙本  
天保5 (1834) か? 綿屋喜兵衛板



30-1  
〈两点講釈〉大全商売往来  
たいぜんしょうばいおうらい  
一冊 中本  
天保13年 (1842) 序  
近澤幸山撰 玉養堂藏板

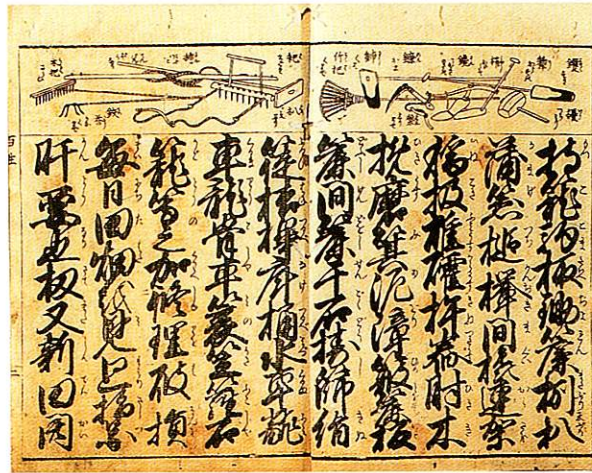


30-2

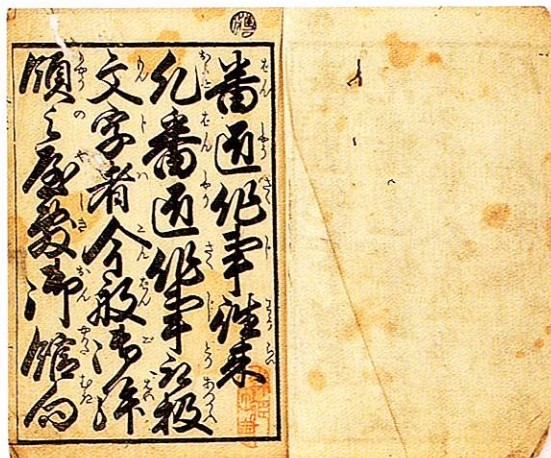
「百姓往来」は禿箒子の著作で、「百姓往来」ともいう。農具・土地の用益・検見・貢納・巡視の際の心得・農民の心得などについて記す。幕末・明治頃、七〇種以上の板をかさね広く普及した。



31  
 〈新刻〉百姓往来  
 ひやくしやうおうらい  
 一冊 半紙本  
 天保13(1842)4月新刻  
 山城屋新兵衛



31-2



33  
 番匠往来  
 ばんじやうおうらい  
 一冊 中本 江戸期  
 文江堂梓 吉田屋文三郎板



32  
 延寿百姓往来大成  
 えんじゅひやくしやうおうらいたいせい  
 一冊 大本  
 慶応3(1867)新刻  
 玉養堂梓 須原屋茂兵衛 山城屋佐兵衛 他13肆